

次の企業と FIVE STAR MAGAZINE は士業界を応援しています。

Powered By
ご協賛企業



ストライク

NOTHING IS

impossible

イマ、知りたい!

特集

士業の コレカラ

AI、統合、オフィスの在り方

士業事務所のための経営専門誌

The Magazine for Professional Firms

オオノオ!!

連載

“I can't believe
ChatGPT
can do this!”

こんなことまで できるなんて!

取材／セブンセンス税理士法人（東京都港区）
ディレクター 公認会計士・税理士 大野修平氏

第7回 取材日

2025.10.8

このまま ChatGPT が進化すれば、士業を始めとするホワイトカラーの仕事は奪われていく——!?
そのことに危機を感じた我々は、“税理士業界における ChatGPT の第一人者”大野修平氏とともに、ChatGPT の進化の動向をウォッチしていくことにした。ChatGPT の進化は止まらない。それどころか早まるばかりだ——

オオノオ!! なんてこった!!

(文・武田司、Claude : Sonnet4.5)

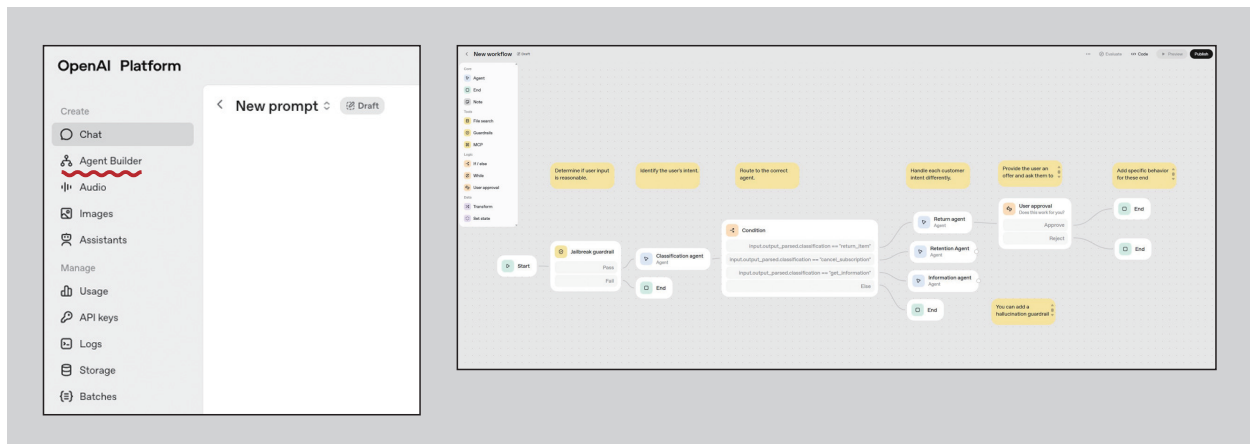
「エージェントビルダー」が実装間近

—大野先生に聞きたいことがありまして、ChatGPT で「ビジネスプラン」が始まりましたよね。

大野：知らないですね。そんなのがあるんですか？

—ChatGPT を開いたら「ビジネスプランを始めませんか？」ってメッセージが出てきました。

大野：ああ、これですね。完全に無視してました（笑）。これは共同作業用のプランで、昔で言う「チームプラン」のことだと思います。以前のチームプランがこれに変わったのだと思います。



—そういうプランがあったんですね。

大野: ありましたよ。でも、あまり気にかけていませんでした。

—それではそれは置いて。今、ChatGPTに限らず、大野先生が注目しているプロダクトや動きがあれば教えてください。

大野: ちょうどこの前、10月6日に OpenAI 社からいくつか開発者向けのリリースがあったんですよ。

いろいろあったのですが、一番はこれですね。「エージェントビルダー」と呼ばれる機能なのですが、ワークフローをこんな感じで作れるものです【写真上】。

RPA (Robotic Process Automation、業務自動化ツール) の中に生成 AI の頭脳を組み込んだものと考えればわかりやすいかもしれませんね。

—いよいよ真打ち登場ですね。ビジネスにおけるインパクトは大きそうです。これはまだリリースだけですか、それとももう使えるんですか？

大野: 使えますよ。OpenAI の「GPT playground」という開発者向けのページがあって、そこでこ

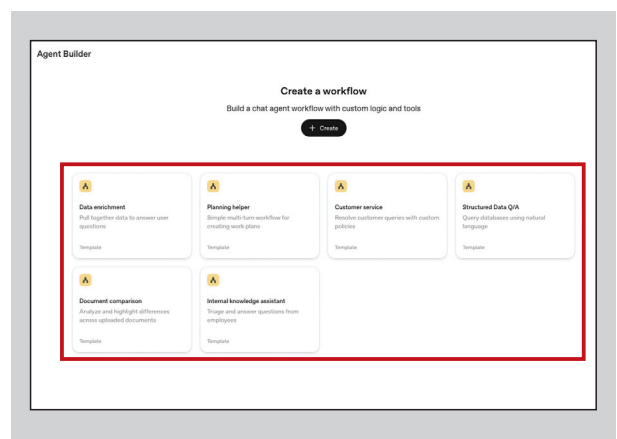
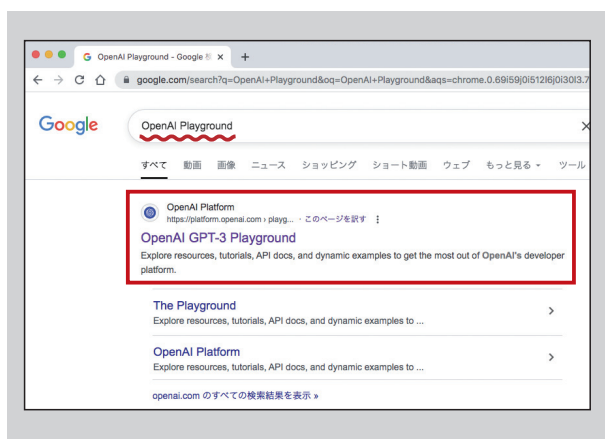
のエージェントビルダーが無料で使えるようになっています。「OpenAI Playground」で検索すると出てきます。【写真左下】

生成 AI をプロンプトだけでコントロールして作業させると、挙動が安定しませんよね。でも、エージェントビルダーでは作業プロセスを分けて、一つ一つ AI に処理させていきます。切り分けたプロセスの中にプロンプトを書いて AI に処理させたり、判断させたりすることができるんですけど、判断が分岐する場合などの処理方法も細かく設定することができます。

完成したら「パブリッシュ」するとコードが与えられて、ホームページなどに組み込むことができるようになります。例えば、ユーザーがフォームに入力したら、自動的に AI が回答するようなものをつくることができます。

—なるほど。これはいろんなシーンで使えそうですね。

大野: きっちり作りこめば、ある程度の作業を AI に行わせることができるようになります。



私たちが不安なのは、AI が気まぐれで処理するからうまくいくときといかないときがあることなのですが、こうやってプロセスを区切って「この場合はこういう風に処理してください」と細かく指示することで、割と正確に処理できるようになると思います。

すでにテンプレートもいくつか用意されていますよ【前ページ写真右下】。

—AI アプリをノーコードで作れるということですね。

大野：そうですね。もともとエージェントビルダーのような機能を持ったサービス（「Dify など」）はあったんですけど、今回はそれを ChatGPT が出してきました。

おそらく今後、この領域に OpenAI も力を入れていくと思いますので、今後はこれが大きく進化していくだろうと思います。

—AI を使ったアプリはすでにたくさん出ていますが、なかなかそれらを追いつけられません。

大野：そうですね。ただ、いろんなアプリがあっても、結局 OpenAI が調達している資金とか認知度とか、集まっているデータ量がまるで違うので、後出しじゃんけんで OpenAI が総取りしていきます。

AI 動画の生成も、OpenAI では「Sora（ソラ）」というものをリリースしています。うちのスタッフはこれを使って、いろんな動画を作って遊んでいますよ【写真下】。

—ほかの仕事と兼務なのかもしれないですけど、AI を扱う仕事を担当している人は羨ましいですね。どんどん進化していくから、今は楽しくってしかたがないんじゃないですかね。

「プロンプト・エンジニアリング」に縛られるな！

—どんどん進化していく AI と、どう付き合っていくのが問題になりますね。

大野：別に私がウラ情報を知っているわけでもなんでもないんですけど、世の中にある情報をまとめて教えてあげるだけで、価値が生まれていますからね。

普通の人ならついていけないと思いますよ。

—AI との付き合い方はどんどん変わってきています。大野先生は以前から「もう人間が判断すべきじゃない」と言っていたんですが、私もだんだんそのことが分かってきました。

大野：そういう意味ではプロンプトも、今はもうなるべくラフに書いたほうがいいんじゃないかと思っています。

これまでは、プロンプト・エンジニアリングと言って、制約条件や出力形式などを細かく指定して、自分の思った通りに出力させようとしてきましたが、でも今はもう、生成 AI に IQ で大きく抜かれちゃってるんですよね、私たちは。

そういう中で、愚かな人間が考えた出力形式とか制約条件で賢い AI を縛ることで、彼らの思考や可能性を制限してしまうおそれがあるんじゃないかと思っているんですよ。

だから私は、最高の知能があるのだから、目的だけ伝えて自由にやってもらったほうがいいんじゃないかなと思っています。



大野氏がスーツを着て謝罪する生成動画▶

大野 裕平 ユ・フォロー中
スタッフが（Soraで）作った大野の謝罪動画。...さらに表示



—会計の仕訳でも、勘定科目は何にするかを専門家にねばなるほど考えますからね。でも、そんなの AI に資料を渡して「これは AI が決めたものなので」ってやった方がいいのかもしれない。

大野：この間、オロナミンCのレシートを AI に渡して仕訳を切らせたときに、彼は「消耗品費」で切ったんですけど、注釈として「従業員向けだったら福利厚生費になります」とか「販売目的だったら仕入になります」などという提案もしてくれました。経験の浅い人間が仕訳するよりも AI にやってもらったほうが、いいものが出てきます。

さっきのエージェントビルダーのように、ある程度動作をコントロールしたいときは別ですけど、自由に発想させるのなら任せてしまったほうがいいのだろーと思います。

—これでいよいよ、ビジネスも変わっていきますね。私たちも前回、大野先生の手稿を ChatGPT に書いてもらいましたが、そこそこできますからね。

大野：ChatGPT-5 は箇条書きとか表とかにまとめがちなので、私は今、文章作成のときは

「Claude (クロード)」を使っています【写真上】。日常使いの「Sonnet 4.5 (ソネット)」というモデルでも、わりと良い文章を書いてくれますよ。

—確かに ChatGPT は箇条書きになりがちですね。回答を出すときも、「これとこれとこれがあって、これとこれの可能性がありますが」みたいな (苦笑)。

大野：Claude はその点、しっかりとした文章を書いてくれるんです。だから文章のブラッシュアップのような作業はこっちのほうがいいですね。

—では、今回の原稿は Claude を使って作成してみますね。

調べ物は全て、AI に任せてしまえ！

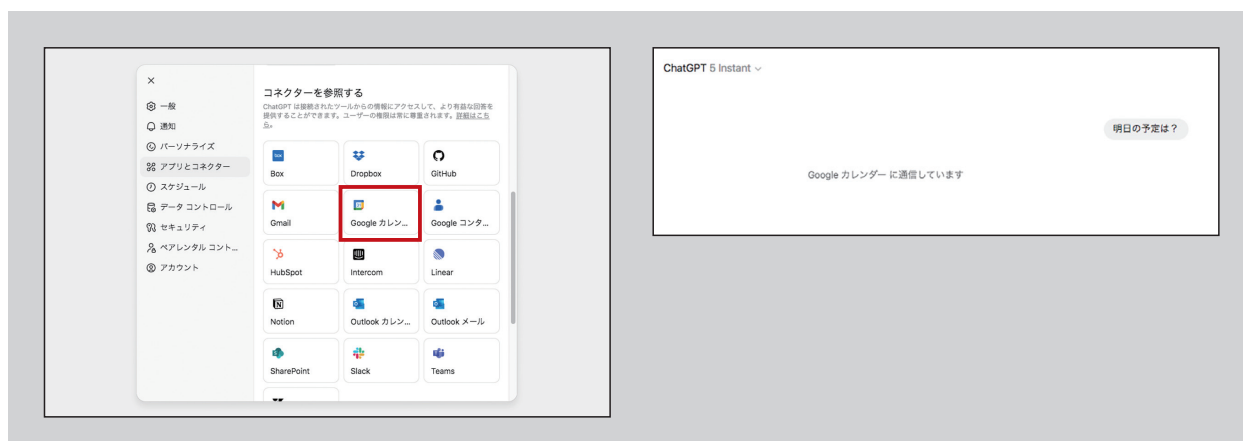
—いろんな生成 AI がありますけど、そろそろどれかに一本化してもいいものですか？

大野：そういう流れになってきていますが、私はまだ時期尚早だと思っています。まだ覇権争いをしている最中なので、そんなに慌てなくてもいいのかなという気がしています。—いずれ、どの AI を使うべきかを AI が教えてくれるようになるかもですね (笑)。その中でも、Google の Gemini に強みがありますよね。Google アプリとの連携がありますからね。

大野：そうですね。例えば Gemini に「この3日間で返信が必要そうなメールは？」などと聞けば、Gmail から探してきて提示してくれます。

でも実はこれ、ChatGPT に「コネクター」という機能があって、Gmail や Google ドライブなどに接続することで連携できるようになります【写真下】。

だから ChatGPT でも「明日の予定は？」



などと聞けば、Google カレンダーを参照して答えてくれますよ。今後はさらに、ChatGPT の中で操作できることが増えていくと思います。

—そうなんですね。それなら今後は、政治家が「秘書がやりました」って答弁するように、何かあったら、全部 AI のせいにできるってことですね (笑)。

大野: そうですね、以前 ChatGPT に「オペレーター」という機能が追加されましたよね。

それが今は「エージェント」という機能になって、エージェントがいろんなことをやってくれるようになっていきます。

—Web などを検索して、分析などをしてくれる機能ですよな。

大野: ChatGPT 上で仮想のブラウザを開いて、例えば通販サイトで希望に合った商品を探してもらふことなどもできます。今はまだ調べるのにすごく時間がかかるんですけど【写真】。

—なるほど。今回学んだことは、これから調べものは全て ChatGPT にお任せしようということですね。

大野: そうですね。そして多分、それはすでに多くの人がやっています (笑)。

でも今は、いろんなアプリを自分で立ち上げて使わないといけないのですが、今後は ChatGPT の中だけでそうしたアプリの利用ができるようになっていくと思います。

—AI が全てやってくれるようになるわけですね。う～ん、良いことなんだか、悪いことなんだか (苦笑)。引き続き、気を引き締めて AI の動向を注視していきましょう。■



セブンセンス税理士法人
(東京都港区)
公認会計士・税理士、ディレクター
大野修平

大学卒業後、有限責任監査法人トーマツへ入所。金融インダストリーグループにて、主に銀行、証券、保険会社の監査に従事。トーマツ退所後は、資金調達支援、資本政策策定支援、補助金申請支援などで多数の支援経験を持つ。また、スタートアップ企業の育成・支援にも力を入れており、各種アクセラレーションプログラムでのメンタリングや講義、ピッチイベントでの審査員や協賛などにも精力的に関わっている

